



北海道大学 Hokkaido University

大学院獣医学研究院・獣医学部

Faculty of Veterinary Medicine · School of Veterinary Medicine



第14回北海道大学獣医学部同窓会フォーラム
【令和7年度 獣医学学術交流基金 特別事業】

第1部：獣医学部創立75周年プレ講演会「北大獣医の将来を俯瞰する」

第2部：進路への情報交換会「今、NOSAIが面白い」

日時： 令和7年9月27日（土）14：30－16：30

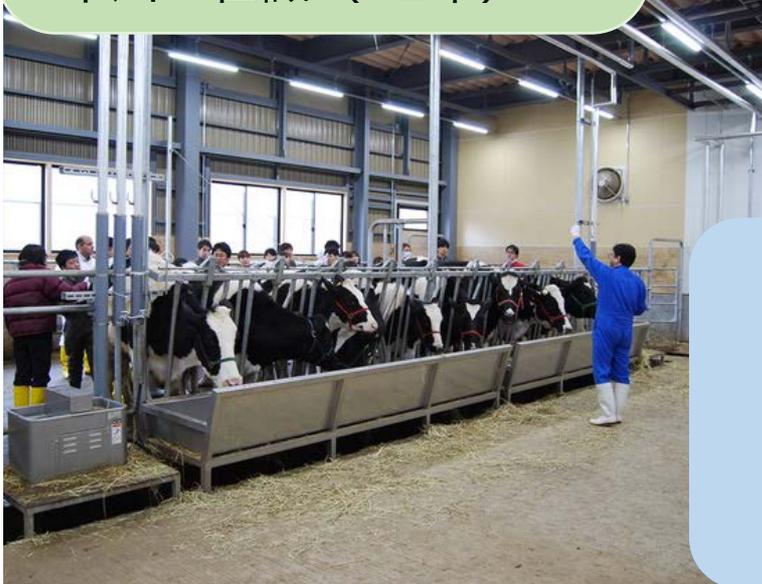
場所： 獣医学研究院講義棟 講堂/オンライン (Webex)

フォーラムの主旨

今年度は2部構成でお届けしたいと存じます。第1部として、次年度（令和8年度）はいよいよ獣医学部創立75周年を祝うことになることから、そのプレ講演会として北大獣医の将来を俯瞰いただきたいと思います。第2部として、大動物獣医師を目指す学生のため、とくにNOSAI（農業共済組合）を取り上げ、諸先輩方の体験談とともに学生への有用なアドバイスができればと願っております。

第1部

迫田 義博（H6卒）
市川 世識（R2卒）



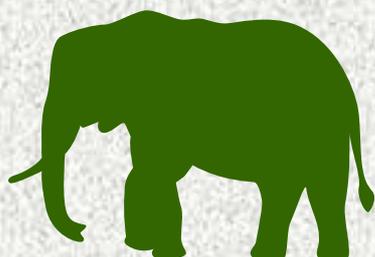
第2部

佐藤 時則（S49卒）
君島 哲夫（S62卒）
大江 さくら（R2卒）
範 越（学部6年）
桐原 慎也（学部5年）

ミーティングリンク：<https://hokudai.webex.com/hokudai/j.php?MTID=me902f795537174976b02faf58189cef4>

ミーティング番号:2515 009 8980

パスワード: HPnvQ8MEE46



連絡先: R7庶務担当 森松011-706-5106 / mmorimat@vetmed.hokudai.ac.jp

本フォーラムは「令和7年度獣医学学術交流基金特別事業」として開催します。

第1部【獣医学部創立75周年プレ講演会「北大獣医の将来を俯瞰する」】

14:30~14:50

次世代獣医師育成計画 ―今まさに、同窓会による後押しを！―

迫田 義博 大学院獣医学研究院長（平成6年卒）

14:55~15:15

法獣医学分野の活動と同窓会 ―動物の悲鳴に応える―

市川 世識 法獣医学分野特任助教（令和2年卒）

第2部【進路への情報交換「今、NOSAIが面白い」】

15:30~15:40

NOSAI獣医師の底力を生で実感 ―一定年再就職の48年間を通して―

佐藤 時則 元北海道NOSAI、元MPアグロ株（昭和49年卒）

15:40~15:50

NOSAI北海道の人材育成 ―特に新規獣医師について―

君島 哲夫（昭和62年卒）

15:50~16:00

今日も牛とアイドリングトーク ―大学では教えてくれない牛の秘密―

大江 さくら NOSAI北海道 石狩北部診療所（令和2年卒）

16:00~16:10

春からNOSAI ―期待と不安―

範 越（学部6年）

16:10~16:20

大動物臨床に興味あり！ ―でもどうすれば良いの？―

桐原 慎也（学部5年）

16:20~16:30

進路への情報交換

次世代獣医師育成計画 ―今まさに、同窓会による後押しを！―

迫田 義博 大学院獣医学研究院長・同窓会会長（平成6年卒）

北海道大学獣医学部は1952年に創設され、2027年に創立75周年を迎えます。先人たちが築いてきた獣医学の知と理念を次世代に継承し、未来へのさらなる発展に向けた挑戦を続けるため、「北海道大学獣医学部創立75周年記念事業」を計画いたしました。この事業は、2026年に北海道大学が創基150周年を迎えることとの相乗効果を期待し、予定を1年前倒しして、2026年10月を中心に「100年への架け橋 ～獣医学部創立75年の知と挑戦～」をキャッチフレーズとして実施いたします。

現在計画している記念式典・講演会等は以下の通りです：

- ・2026年10月3日（土）：獣医学部講堂にて、式典・講演会・祝賀会を開催
- ・2026年10月4日（日）：獣医学部講堂にて、市民公開講座を開催

創立50周年記念事業では、獣医学部内に講演会等を開催できるホールがなかったため、学術交流会館、遠友学舎、京王プラザホテルなどで実施しました。今回は、2010年に竣工し、教育・研究に活用されている獣医学研究院講義棟を会場とし、最新のICT（情報通信技術）を取り入れて実施します。学部内で行事を開催できることは、獣医学部のアイデンティティや独立性を内外に示すうえでも効果的です。また、学内開催により経費を抑えることで、皆さまからご支援いただく基金を、将来の獣医師育成のためにより多く活用できると考えております。

獣医学部創立75周年記念事業は、1952年の創設以来、先人たちが築いてきた獣医学の発展を次世代に継承し、次世代の獣医師育成に資する基盤を整備し、未来のさらなる発展に寄与することを目的とした基金です。北大獣医学部では、日本のみならず世界の獣医学の発展、そして「One Health」の理念に基づいた地球規模のウェルビーイングに貢献する学生を多数輩出してきました。そして我々はその取り組みをさらに加速させます。

獣医学部創立75周年記念事業では、以下の取り組みを中心に進めてまいります：

1. 未来を担う学生の国際的な実践力の修得支援
2. 若手獣医師による高度獣医療を支える技能修得の支援
3. 獣医学教育に資する先端的教育機材の整備

これらを通じて、高度化する獣医療・獣医学教育を先取りし、先導してまいります。なお、25年前の創立50周年記念基金では、同窓生2,000名のうち約500名（4分の1）を含め、総額2,252万円のご寄付をいただきました。今回も、創立100年への架け橋となる本事業に対し、同窓生の皆さまからの温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



法獣医学分野の活動と同窓会 —動物の悲鳴に応える—

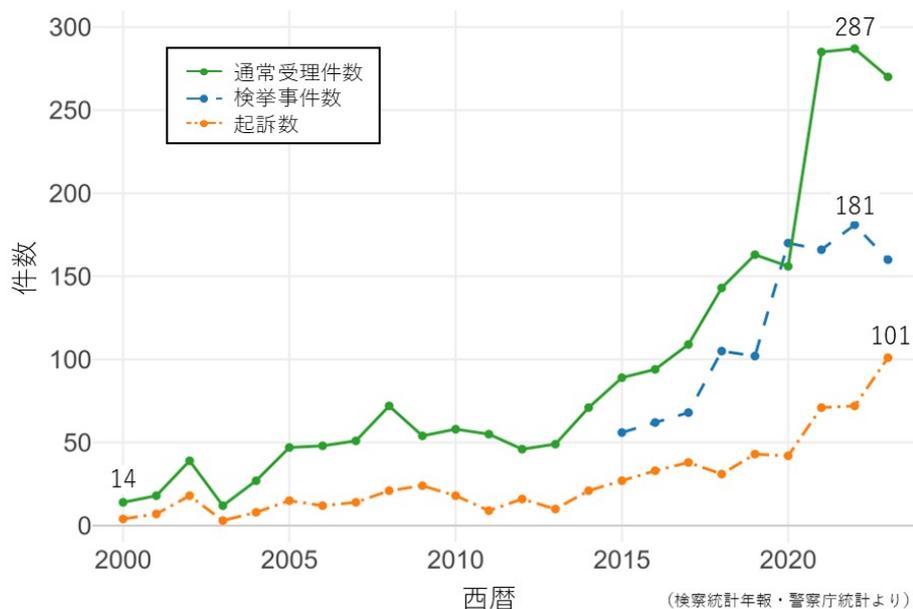
市川 世識 北海道大学獣医学研究院法獣医学分野特任助教
(令和2年卒)

動物は単なる「もの」ではなく「命あるもの」であるため、人々の動物を愛護する良俗を保護する必要があります。動物の愛護及び管理に関する法律によって、動物をみだりに殺傷する、あるいは虐待・遺棄する行為は、刑罰が科されます。令和元年の動愛法改正によって、その罰則は強化され（5年以下の拘禁刑又は500万円以下の罰金）、獣医師の通報が義務化されました。動物虐待がヒトの家庭内暴力等の社会問題と関連する暴力であるとの認識が広まり、警察による動物虐待の検挙事件数は過去10年と比較して高水準となっています。伴侶動物のみならず、2023年島根県・2024年茨城県の産業動物の事例は大々的に報道され、社会からの動物虐待・動物福祉に対する関心は日に日に大きくなっています。

このような社会的要請に応えるべく、動物の死因・飼育環境を科学的に分析・鑑定し、獣医学的見地から動物福祉に係る法的事実を立証するための学問が、「法獣医学」です。法獣医学は、医学領域における法医学・法科学に相当する学問領域であり、死体を扱う法獣医病理学・法獣医中毒学から、生体を対象とする動物福祉学など多岐にわたる学術領域を内包します。日本学術会議・獣医学分科会の審議においても、法獣医学の必要性に関する話題が出された一方で、これまで日本の獣医系大学に「法獣医学」を冠する研究室はほとんどありませんでした。そんな中で本年度より、北海道大学獣医学研究院に公益財団法人住友電工グループ社会貢献金による寄付講座として、「法獣医学分野」が開設されました。

本日は、これまでの法獣医学分野の活動内容（①警察からの嘱託鑑定、②法獣医学関連の市民公開講座、③研究活動）について紹介させていただき、社会から期待・それを実現するための課題についてご報告させていただきます。

動物の愛護及び管理に関する法律の 通常受理事件数・違反人員の推移



NOSAI獣医師の底力を生で実感 一定年再就職の48年間を通して一

佐藤 時則 元北海道NOSAI、元MPアグロ(株) (昭和49年卒)

日本の農業畜産はNOSAI（農業共済）制度が支えてきたと言っても過言ではありません。今回はイントロとして、NOSAI（1974－2009）と動物用医薬品卸売会社（2009－2022）に勤務した48年間を通してNOSAI獣医師に寄り添ってきた立場から、①獣医師から見たNOSAI制度の沿革、②NOSAI獣医師の需給動向と確保対策の歩み、③NOSAI 獣医師の底力（強み）を紹介させていただきます。特に、定年まで勤務した北海道NOSAIと再就職したMPアグロ(株)は共に全国的組織であり、獣医師採用業務や獣医師向け情報誌の編集を担当する中で全国を駆け回ることができたことから、私の視野と人脈を広げることにとっても役立った次第です。その業務に携わった生き証人として、トピックとなる出来事やNOSAI獣医師の底力を織り交ぜてお話できれば幸いです。



特に、6年制移行期から乳牛の子牛共済導入期までの間、NOSAI獣医師不足に陥った際、逆3K（給与、休日、研修）をリクルートのスローガンとして、全国に先駆けて講じた本道の新卒獣医師確保対策の具体例と、通算48年間の勤務を通して私が直接見聞きしたNOSAI獣医師の底力（強み）の一端を紹介させていただきます。

最後に余談となりますが、同窓の先生方と各地で出会い支援を受けたことも忘れられません。思い起こせば、獣医学部同窓会のありがたみを肌で感じた48年間でもありました。「母校」は「母港」でもあります。

NOSAI北海道の人材育成 一特に新規獣医師について一

君島 哲夫 NOSAI北海道 (昭和62年卒)

当組合は800名余りの獣医師が勤務しており、昨年度は約50名、今年度は約40名の新規獣医師を採用している。本発表では組合の人材育成と、新規獣医師を中心とする卒後教育について簡潔に述べる。

人材育成の基礎

NOSAIは農業経営の安定化を図る組織であり、全国統一された理念が存在する。当組合では全職員・全職種においてこの理念に沿った人物像を掲げ、その上で職位ごと・職種ごとに求められる到達目標をキャリアラダーとして明示している。目標達成のための研修機会は「公平」・「個性」・「オープン」の姿勢で職員に提供される。

獣医師職員の卒後研修

「獣医師教育プログラム」を策定し、新規獣医師については、新人とOJT(On the Job Training)指導者の両方に対して教育の進め方を具体的に示している。また、OJTを超えて全道の教育指導を目指す中堅獣医師については、専門・指導性を高める意義を示している。

新規獣医師の研修体制

獣医療の知識・技術の習得については、組合施設での研修と診療現場でのOJTを行い、診療技術用のクリニカルラダーで到達目標を示している。また、到達度を評価するためにチェックリストを用いており、このリストを利用した自発的な研鑽も促している。一方、獣医療と同程度に農業共済制度の理解が必須であり、共済制度に則したカルテ記載方法など実践的な研修を行い、その到達目標は獣医師用の専門ラダーに示している。



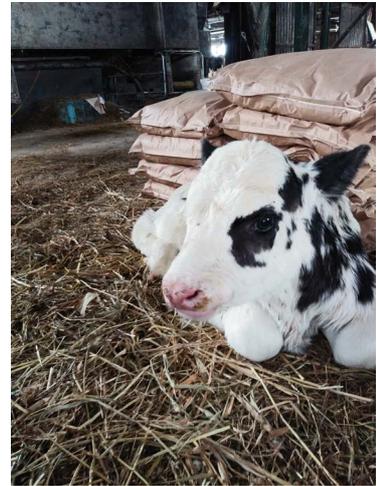
今日も牛とアイドリングトーク —大学では教えてくれない牛の秘密—

大江さくら NOSAI北海道 石狩北部家畜診療所 (令和2年卒)

「2日前にお産した牛が急に餌を食べなくなって、体も冷たいんだよね。診てほしいなあ」と農家さんからの電話。往診に行くと、座ったままぼーっとしている牛。さて、いったい何の病気でしょうか？

NOSAI歴5年、若手担当の私からはNOSAI獣医師の1日について紹介させていただきます。朝8時半に出勤し、その日の診療内容の確認、担当者の振り分けを行います。その後車に薬や器具を積み込み農場へと出発します。農場では飼い主から稟告をとり、患畜を聴診し、必要な検査があれば実施します。診断がついたら注射や点滴をし、次の農場へと向かいます。手術が必要な場合は現地で行うか、又は手術室がある診療所だとトラックで患畜を運搬してもらいます。午前の診療から戻ってきたらお昼ご飯を食べて、午後の診療に行くか、手術をするか、又はカルテを書きます。そんなこんなで気が付けば16時45分の終業を迎えます。

牛は犬猫のように全身のエコー検査やレントゲン、CTを気軽にとることは出来ません。産業動物なのでお金のかかる治療や高額な薬も使えません。それ故に牛がどんな生き物で、最小限の治療でいかに治すかを日々考え、試行錯誤することは非常にやりがいと魅力を感じます。



春からNOSAI —期待と不安—

範 越 (学部 6年)

NOSAI長崎から内定をいただき、国試を無事に合格できるのなら、来年から長崎に就職します。

3年生の時初めてNOSAI実習に参加し、大動物臨床が自分に合う仕事だと感じていました。可愛い牛と触れ合い、往診途中の綺麗な景色、優しい先生と農家さん達に惹かれていました。生きている牛を撫でるのも、牛乳も、牛肉も好きで、やり甲斐のある仕事だと思います。NOSAIは毎年実習を募集し、大学に説明会も開催しに来るので、私のような非農家出身の学生にとって、大動物臨床という進路の中で一番身近な存在だと感じられます。また、就職できる都道府県をほぼ自由に選択できることも非常に魅力的だと思います。

新しい土地に行って、新しい友達を作り、楽しい新生活を期待しています。九州の四季の景色を満喫することも期待しています。しかし、留学生として、頻りに帰省できないことは承知しておりますが、万が一両親に何が合った場合、海外に行くことに関する制限期間が一番の心配です。また、農家の高齢化及び餌代の高騰なども聞いており、畜産業の未来はどうなるかが少し不安と感じています。



大動物臨床に興味あり！ ーでも、どうすれば良いの？ー

桐原 慎也（学部 5年）

私はもともと大動物が好きで、牛や馬を詳しく知りたいという漠然とした考えから獣医学部へ進学しました。大学では普段の授業に加え、長期休業期間にNOSAI北海道の日高中部家畜診療所と音別白糠家畜診療所で、それぞれ5日間の実習に参加させていただきました。大学で学ぶ以前は産業動物という概念や、大動物の獣医師の職域を具体的にイメージできていませんでした。しかし、実習を通じて農家の方やNOSAIの先生方からお話をうかがい、動物の健康だけでなく畜産業に携わる人の生活を守る産業動物獣医師の仕事に魅力を感じるようになりました。来年度はぜひNOSAI北海道の採用試験に挑戦したいと考えております。

また、2021年度の「北海道獣医療提供体制整備計画書」によると、北海道では産業動物獣医師はおおむね確保されており、今後も獣医師数を維持することが目標とされています。私自身もそうであるように、学生の進路決定にインターンシップはとても重要だと感じています。一人の学生として実習に参加して感じたNOSAI北海道の魅力や、同級生に聞いた産業動物臨床に進む際の懸念点について今回ご紹介させていただきたいと思います。



進路への情報交換

参加している学生のみなさん、同窓会は先輩と後輩の情報交換の場です。今回のフォーラムは「NOSAIを深掘りする」ことを企図しました。就職説明会では聞けない後輩からの質問を、先輩という立場からアドバイスしてくれます。どうぞ、忌憚のない質問をよろしくお願いします。